

# 踏み出そう！新たな一歩！

題字 2 年 5 組 福島かりん



第 91 号

天高育友会報  
平成 29 年 7 月 19 日 発行  
発行 県立天草高等学校育友会  
編集 天高育友会文化広報委員会  
印刷 ワタナベデザイン



題字 2 年 5 組 下宮

## 祝入学



デンソーの電池を使ったバイオエネルギー講義



積極的に手を挙げ参加する生徒たち



講義を聞きながらしっかりメモをとります。

### 天草学連続講義

# SSH



天草市のドローン 2 機



ドローンのカメラ映像をタブレットで確認している様子

平成 29 年 4 月 10 日(月)に行われた、全日制課程 72 回入学式。男子 88 人、女子 123 人、計 211 人の新入生が入学しました。今年度から 5 年間スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校となり、新たな一歩を踏み出します。

## まだ三年あると過ぎすのか 三年しかないと過ぎすのか

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。並びに保護者のみなさま誠にありがとうございます。義務教育の期間を修了し、高校受験という難関を乗り越え、初めて自分の力で人生の進路を決められた皆さんの天草高校での三年間が、より充実した日々でありますよう心よりお祈り申し上げます。

本校は、創立 120 年を超える伝統ある学校で、天草高校同窓会「函南会」をはじめ多くの卒業生の方々に支えられ、地域の皆様にも愛され続けている学校であります。また本年より 5 年間、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール (SSH) の指定

を受けて、取り組みがなされますので、新入生の皆さんにはこれまで以上に充実した学校生活となるのではと期待しております。新入生の皆さんにとって、これからの三年間は、それぞれの将来を決める貴重な三年間であると同時に、あらゆる可能性を秘めたそれぞれの未来を創造していくことができる三年間でもあります。高校や大学での生活は入口よりも出口の方が大切と言われます。この貴重な時を「まだ三年ある」として、日めくりカレンダーのごとく一日一日を減らして過ごすのか、「もう三年しかない」と捉え一日一日を積み重ねていくかに計画性を持って大切に過ご



育友会会長  
下田昇二郎

すかで、皆さんの未来も大きく違ってきます。学校も保護者も皆さんの最大の応援団でありますので、皆さんがやる気を持って取り組めば、先生方もそれをしっかりと受け止め熱意を持ってこたえていただけるでしょう。より充実した三年間を過ごして参りましょう。そして体育祭や文化祭、修学旅行などの行事を通じて一生付き合える多くの仲間をつくり、勉強や部活動等のびのびとした素晴らしい高校生活で埋め尽くされた卒業アルバムが完成するよう願っています。頑張ってください！

## 次世代に対応する力



校長  
前田 三千治

昨年度は、創立 120 周年を祝う記念式典・講演会や記念事業があり、天草高校の伝統と底力を知る機会となりました。そして、今年度になってからもこれまでの読書活動の実績が認められて文部科学大臣表彰を受賞するなど嬉しいことが続いています。読書は、知識を増やすだけでなく、課題を見つけそれを解決する力、すなわちこれから求められる力を身に付けるのにも役立つと思います。また、新たな歩みとして今年度から文部科学省よりスーパーサイエ

ンスハイスクール (SSH) に指定されました。今回の新規指定は全国で 77 校(応募数 125 校)あり、天草高校のテーマは、「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合い言葉に、地域の豊かな自然環境の中で多様な能力を身に付け、世界に飛躍する科学技術人材の育成を目指すというものです。天草は、ジオパークに認定されるほど地質学的に興味深いところですし、現生の生物も興味深いものが多くあります。また、様々な工法で造られた天草五橋や水産業・農業など科学的

に見ておもしろいものが身近にいっぱいあります。現在、1 年生が「天草サイエンス I (AS I)」という科目で学んでいます。2、3 年生も SSH 特別記念講演会等で学ぶ機会があります。とにかく、SSH をきっかけに理系・文系を問わず、人工知能 AI やロボットがますます進歩していく次世代を生き抜いていく力(課題を見つけ、解決する力)を培ってほしいと思います。

## サイエンスの宝島「天草」から世界へ



SSH 研究部主任  
井上 博登

天草高校は、今年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(通称 SSH)に指定されました。SSH 事業には国際的視野を持った科学技術人材を育成するといった目的があり、熊本県では 4 校目の指定となります。以下に天草高校 SSH の特徴をお知らせします。

1 特色あるカリキュラムを開発  
1 年生全員が学校設定科目「天草サイエンス I」(通称 AS I)を履修し、「天草学連続講義」「グループ調査研究」「ポスターセッションやプレゼンテーション」により地域課題の解決策を提案する力を身に付けます。さらに、現 1 年生が、2・3 年次に AS クラスを選択して履修する「A S II・III」で、大学と連携しながら科学的視点か

ら課題研究を行います。  
2 遠隔授業ができる設備の整備  
大学との連携でカギとなるのが「遠隔授業」です。地元で大学だけでなく、鹿児島大学や長崎大学も遠隔授業をしていただけることになりました。そのために、光回線や Wi-Fi 環境を整備しようとしています。  
また、通信技術の向上により教師が反転授業(授業動画を配信し家庭学習効率を高め、授業で質の高い演習を行う)を行うことができ、より分かりやすい授業ができるようになります。  
3 最先端の研究機材を校内に設置  
「ドローン」「3D プリンター」「タブレットスコープ顕微鏡」「プログラムで動くロボット」などを購入します。単体での活用もできますが、組

み合わせることでより効果的な研究ができることを期待しています。例えば、ドローンで地形図を撮影・分析し 3D プリンターで再現します。そこに人工の波をあてることで津波のリアルな被害予測が可能になります。  
その他にも、今年度から 8 月に開催される SSH 生徒研究発表会や 11 月の科学の甲子園といった全国大会に本校生が参加することになっています。  
文化の薫る自然豊かな天草の地を科学的視点で見るとどうなるのか。天草高校の新たな挑戦が SSH とともに始まります。  
内容の詳細は天草高校ホームページに随時掲載していますので是非ご覧いただきたいと思

まいます。

まいます。